

























つしん景況レポート

作州地域中小企業景況動向調査 2013. 7~9月期 第7回

【特別調査-「アベノミクス」がもたらす中小企業への影響について】

津山信用金庫は、作州地域内の経営者のご協力のもと、第7回つしん景況レポートを発刊させていただきました。作州地域の景況感を経営者の皆様方と共有し、皆様方のよきパートナーとして地域の繁栄に努めてまいります。

■概況：7月～9月の業況は曇、10月～12月の見通しは晴れ時々曇■

【地域別天気図】	2012年 7月～9月	2012年 10月～12月	2013年 1月～3月	前期実績 4月～6月	今期実績 7月～9月	来期見通し 10月～12月
作州地域全体						
津山鏡野地域						
真庭地域						
美作勝央地域						

作州地域全体では、今期（2013年7月～9月）の業況判断DIはプラス9.8となり、前期比8.0ポイント下降した。

来期（2013年10月～12月）はプラス28.9と大幅に改善する見通しとなっている。地域別には、今期も全地域でプラスであったが、津山鏡野地域は前期比4.4ポイント下降、真庭地域は前期比6.0ポイント上昇、美作勝央地域は37.5ポイント下降した。来期は、津山鏡野と真庭地域で改善する見通しとの回答が多く、作州地域全体でも大幅に改善する見通しとなっている。

業況判断DI	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い	普通	悪い	DI	良い	普通	悪い
作州地域全体	17.8	34.1	41.6	24.3	9.8	41.0	46.8	12.1	28.9
津山鏡野地域	12.9	35.2	38.1	26.7	8.5	45.7	43.8	10.5	35.2
真庭地域	12.9	37.8	43.2	18.9	18.9	43.2	48.6	8.1	35.1
美作勝央地域	40.7	25.8	51.6	22.6	3.2	22.6	54.8	22.6	0.0

※ DIとは、Diffusion Index の略で、「良い（または増加、上昇、楽）」と回答があった企業数の割合（%）から「悪い（または減少、下降、苦しい）」と回答があった企業数の割合（%）を差し引いた値

■天気図のご説明■

DI	30以上	10以上～ 30未満	0以上～ 10未満	Δ10以上 ～ 0未満	Δ30以上 ～ Δ10未満	Δ30未満
天気図						

■全業種総合■

【業種別 天気図】	2012年 7月～9月	2012年 10月～12月	2013年 1月～3月	2013年 4月～6月	2013年 7月～9月	2013年 10月～12月 見通し
製造業						
建設業						
卸売業						
小売業						
不動産業						
サービス業						
全業種						

全業種 DI区分	前期 DI	今期実績			来期見通し				
		良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI
業況	17.8	34.1	41.6	24.3	9.8	41.0	46.8	12.1	28.9
売上	18.6	39.3	41.0	19.7	19.6	49.7	39.3	11.0	38.7
収益	7.3	28.9	49.1	22.0	6.9	39.3	49.7	11.0	28.3

- 業況判断DIは、今期(2013年7月～9月)はプラス9.8となり、前期比8.0ポイント下降した。来期(2013年10月～12月)見通しはプラス28.9となっている。
- 売上DIは、今期はプラス19.6となり、前期比1.0ポイント上昇した。来期見通しはプラス38.7となっている。
- 収益DIは、今期はプラス6.9となり、前期比0.4ポイント下降した。来期見通しはプラス28.3となっている。

全業種 DI区分	前期 DI	今期実績			来期見通し				
		楽・過剰	変らず・適正	苦しい・不足	DI	楽・過剰	変らず・適正	苦しい・不足	DI
資金繰り	4.7	9.2	79.2	11.6	▲ 2.4	9.2	80.3	10.4	▲ 1.2
雇用(人手過不足)	▲ 21.9	3.5	64.2	32.4	▲ 28.9	1.7	65.3	32.9	▲ 31.2
設備投資	▲ 15.8	4.3	77.9	17.8	▲ 13.5	4.9	76.7	18.4	▲ 13.5

- 資金繰り判断DIは、今期(2013年7月～9月)はマイナス2.4となり、前期比7.1ポイント下降した。来期(2013年10月～12月)見通しはマイナス1.2となっている。約8割の企業が、「変らず」の回答となっている。
- 人手過不足判断DIは、今期はマイナス28.9となり、前期比7.0ポイント下降した。来期見通しはマイナス31.2となっている。人手不足感が強まっているが、中長期的に景況感が不透明なので、安易に増員できないとする声が多かった。
- 設備投資DIは、今期はマイナス13.5となり、前期比2.3ポイント上昇した。来期見通しもマイナス13.5となっている。「適正」と回答のあった企業が4分の3を上回っている。

■ 製造業 ■

製造業全般	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	31.4	41.7	35.0	23.3	18.4	48.3	41.7	10.0	38.3
売上	37.2	50.0	33.3	16.7	33.3	53.3	35.0	11.7	41.6
収益	25.5	36.7	48.3	15.0	21.7	38.3	46.7	15.0	23.3

- 製造業の業況判断DIは、今期(2013年7月～9月)プラス18.4となった。来期(2013年10月～12月)見通しはプラス38.3となっている。
- 売上判断DIは、今期はプラス33.3、来期見通しはプラス41.6となっている。
- 収益判断DIは、今期はプラス21.7、来期見通しはプラス23.3となっている。
- 製造業の内、下表の製造業(金属製品製造業、木材・木製品製造業、農林業)を除くその他製造業の業況判断DIは、今期はプラス32.0、来期見通しはプラス40.0となっている。

製造業のうち： 金属製品製造業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	27.3	27.3	45.5	27.3	0.0	45.5	36.4	18.2	27.3
売上	0.0	27.3	63.6	9.1	18.2	45.5	36.4	18.2	27.3
収益	0.0	18.2	72.7	9.1	9.1	36.4	45.5	18.2	18.2

- 金属製品製造業の業況判断DIは、今期(2013年7月～9月)は良いと悪いが同率でゼロとなった。来期(2013年10月～12月)見通しはプラス27.3となっている。
- 売上判断DIは、今期はプラス18.2、来期見通しはプラス27.3となっている。
- 収益判断DIは、今期はプラス9.1、来期見通しはプラス18.2となっている。
- 金属製品製造業は、建築資材、電気、食品、介護、医療分野などの多業種を販売先としており、昨年同期比で売上や受注の状況はまちまちであった。

製造業のうち： 木材・木製品製造業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	50.0	46.2	23.1	30.8	15.4	46.2	53.8	0.0	46.2
売上	30.0	53.8	38.5	7.7	46.1	46.2	53.8	0.0	46.2
収益	10.0	38.5	46.2	15.4	23.1	38.5	61.5	0.0	38.5

- 木材・木製品製造業の業況判断DIは、今期(2013年7月～9月)プラス15.4となった。来期(2013年10月～12月)見通しはプラス46.2となっている。
- 売上判断DIは、今期プラス46.1、来期見通しはプラス46.2となっている。
- 収益判断DIは、今期プラス23.1、来期見通しはプラス38.5となっている。
- 今期は、消費税の引上げが予想される中、住宅着工戸数の増加により受注も増加している。天候不順の影響、季節要因に起因して原木出荷が減少し、製材工場では在庫が少なくなっている。
- 来期は、業況が悪いと予想する企業も売上・収益の減少を予想する企業もゼロとなっている。

製造業のうち： 農林業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	9.1	27.3	54.5	18.2	9.1	45.5	45.5	9.1	36.4
売上	45.4	27.3	54.5	18.2	9.1	63.6	36.4	0.0	63.6
収益	27.3	27.3	54.5	18.2	9.1	45.5	45.5	9.1	36.4

- 農林業の業況判断DIは、今期(2013年7月～9月)プラス9.1となった。来期(2013年10月～12月)見通しはプラス36.4となっている。
- 売上判断DIは、今期プラス9.1、来期見通しはプラス63.6となっている。
- 収益判断DIは、今期プラス9.1、来期見通しはプラス36.4となっている。
- 来期は、業況が悪いと予想する企業が少なく、収穫期や伐採期を迎えることから売上・収益とも大幅に改善する見通しとなっている。

■建設業■

建設業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	15.4	42.4	51.5	6.1	36.3	48.5	42.4	9.1	39.4
売上	26.9	45.5	48.5	6.1	39.4	45.5	45.5	9.1	36.4
収益	7.7	39.4	54.5	6.1	33.3	42.4	54.5	3.0	39.4

- 建設業の業況判断DIは、今期(2013年7月～9月)プラス36.3となった。来期(2013年10月～12月)見通しはプラス39.4となっている。
- 売上判断DIは、今期プラス39.4、来期見通しはプラス36.4となっている。
- 収益判断DIは、今期プラス33.3、来期見通しはプラス39.4となっている。
- 住宅建設を除く建設業の業況判断DIは、今期プラス11.1となり、前期比18.2ポイント上昇した。来期見通しはプラス27.7となっている。
- 耐震補強工事の公共事業や消費税の引上げが予想される中で事業用建物や個人住宅の受注が多くなっている。

建設業のうち： 住宅建設	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	41.7	66.7	33.3	0.0	66.7	66.7	20.0	13.3	53.4
売上	58.4	73.3	26.7	0.0	73.3	53.3	40.0	6.7	46.6
収益	33.4	53.3	40.0	6.7	46.6	53.3	40.0	6.7	46.6

- 住宅建設業者の業況判断DIは、今期(2013年7月～9月)プラス66.7となった。来期(2013年10月～12月)の見通しはプラス53.4となっている。
- 売上判断DIは、今期プラス73.3、来期見通しはプラス46.6となっている。
- 収益判断DIは、今期プラス46.6、来期見通しもプラス46.6となっている。
- 今期は業況が悪いと回答した企業と売上が減少したと回答した企業はなかった。来期も、業況の悪化を見込む企業の割合が低く、売上・収益の減少を予想する企業も少なくなっている。

■卸売業■

卸売業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	7.1	50.0	35.7	14.3	35.7	50.0	42.9	7.1	42.9
売上	42.8	57.1	42.9	0.0	57.1	35.7	64.3	0.0	35.7
収益	35.7	35.7	42.9	21.4	14.3	28.6	71.4	0.0	28.6

- 卸売業の業況判断DIは、今期(2013年7月~9月)プラス35.7となった。来期(2013年10月~12月)見通しはプラス42.9となっている。
- 売上判断DIは、今期プラス57.1、来期見通しはプラス35.7となっている。
- 収益判断DIは、今期プラス14.3、来期見通しはプラス28.6となっている。
- 建築資材を取り扱う企業等で景況感がよくなっており、今期は売上が減少した企業がなく、来期も売上・収益の減少を予想する企業はなかった。

■小売業■

小売業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	▲ 13.1	16.0	44.0	40.0	▲ 24.0	28.0	48.0	24.0	4.0
売上	▲ 17.4	28.0	32.0	40.0	▲ 12.0	60.0	28.0	12.0	48.0
収益	▲ 30.5	12.0	44.0	44.0	▲ 32.0	44.0	40.0	16.0	28.0

- 小売業の業況判断DIは、今期(2013年7月~9月)マイナス24.0となった。来期(2013年7月~9月)見通しはプラス4.0となっている。
- 売上判断DIは、今期マイナス12.0、来期見通しはプラス48.0となっている。
- 収益判断DIは、今期マイナス32.0、来期見通しはプラス28.0となっている。
- 自動車小売業を除く小売業の業況判断DIは、今期マイナス20.0、来期見通しはプラス13.4となっている。
- 小売業の盆売上は、帰省客の増加と暦の関係で1週間なだらかな売上増加日が続き、売上が昨年を上回って、昨年比で景況感が改善したと感じるとの声があった。

小売業のうち: 自動車小売業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	▲ 66.7	0.0	70.0	30.0	▲ 30.0	30.0	30.0	40.0	▲ 10.0
売上	▲ 33.4	10.0	50.0	40.0	▲ 30.0	40.0	30.0	30.0	10.0
収益	▲ 22.2	0.0	70.0	30.0	▲ 30.0	30.0	40.0	30.0	0.0

- 自動車小売業の業況判断DIは、今期(2013年7月~9月)マイナス30.0となった。来期(2013年10月~12月)見通しはマイナス10.0となっている。
- 売上判断DIは、今期マイナス30.0、来期見通しはプラス10.0となっている。
- 収益判断DIは、今期マイナス30.0、来期見通しはゼロとなっている。

■不動産業■

不動産業	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変わらず	悪い・減少
業況	40.0	20.0	40.0	40.0	▲ 20.0	20.0	60.0	20.0	0.0
売上	▲ 30.0	20.0	30.0	50.0	▲ 30.0	40.0	50.0	10.0	30.0
収益	▲ 30.0	20.0	30.0	50.0	▲ 30.0	40.0	50.0	10.0	30.0

- 不動産業の業況判断DIは、今期(2013年7月~9月)マイナス20.0となった。来期(2013年7月~9月)見通しはゼロとなっている。
- 売上判断DIは、今期マイナス30.0、来期見通しはプラス30.0となっている。
- 収益判断DIは、今期マイナス30.0、来期見通しはプラス30.0となっている。
- 消費税引き上げに伴う不動産の売買は、期待外れとなり、今期実績はマイナスとなった。また、盆以降は電話の問い合わせもなくなっているとの声があった。
- ごく一部の地域以外の土地は、値段を下げてても売れない状況が続いているとの声があった。

■サービス業■

サービス業	前期	今期実績				来期見通し				
		DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI
業況	18.5	22.6	45.2	32.3	▲ 9.7	32.3	58.1	9.7	22.6	
売上	11.1	19.4	58.1	22.6	▲ 3.2	48.4	35.5	16.1	32.3	
収益	3.7	16.1	58.1	25.8	▲ 9.7	38.7	48.4	12.9	25.8	

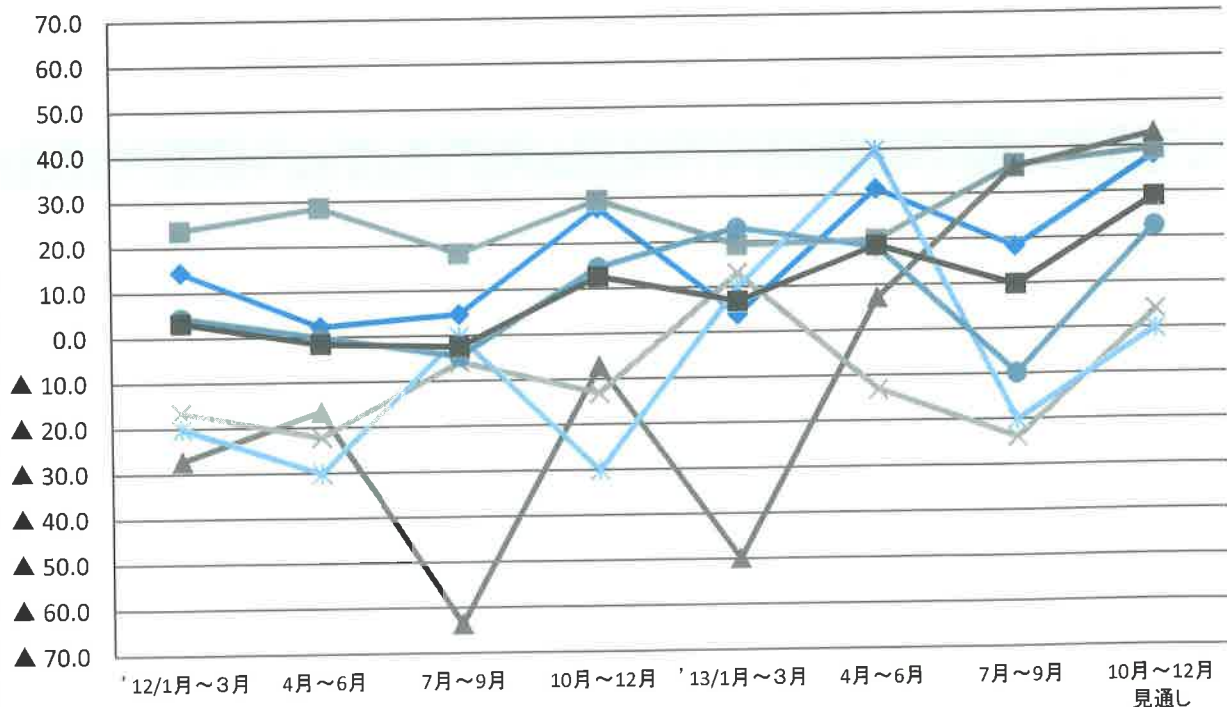
- サービス業の業況判断DIは、今期（2013年7月～9月）マイナス9.7となった。来期（2013年10月～12月）見通しはプラス22.6となっている。
- 売上判断DIは、今期マイナス3.2、来期見通しはプラス32.3となっている。
- 収益判断DIは、今期マイナス9.7、来期見通しはプラス25.8となっている。

サービス業のうち： 医療福祉業	前期	今期実績				来期見通し				
		DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI	良い・増加	普通・変らず	悪い・減少	DI
業況	16.7	25.0	58.3	16.7	8.3	50.0	50.0	0.0	50.0	
売上	16.6	16.7	75.0	8.3	8.4	41.7	41.7	16.7	25.0	
収益	0.0	16.7	58.3	25.0	▲ 8.3	33.3	50.0	16.7	16.6	

- 医療福祉業の業況判断DIは、今期（2013年7月～9月）プラス8.3となった。来期（2013年10月～12月）見通しはプラス50.0となっている。
- 売上判断DIは、今期プラス8.4、来期見通しはプラス25.0となっている。
- 収益判断DIは、今期マイナス8.3、来期見通しはプラス16.6となっている。
- 来期は季節の変わり目で、例年患者が増加することから売上増加を予想している。

業種別業況判断DIの推移

◆ 製造業 ■ 建設業 ▲ 卸売業 × 小売業 ※ 不動産業 ● サービス業 ■ 全業種



■ 昨年同期比較売上高・収益 ■

業種別	増加	変わらず	減少	DI
製造業	53.3	28.3	18.3	35.0
建設業	63.6	18.2	18.2	45.4
卸売業	35.7	42.9	21.4	14.3
小売業	32.0	40.0	28.0	4.0
不動産業	20.0	30.0	50.0	▲ 30.0
サービス業	38.7	25.8	35.5	3.2
総計	46.2	28.9	24.9	21.3

業種別	増加	変わらず	減少	DI
製造業	50.0	33.3	16.7	33.3
建設業	39.4	42.4	18.2	21.2
卸売業	28.6	50.0	21.4	7.2
小売業	20.0	48.0	32.0	▲ 12.0
不動産業	40.0	20.0	40.0	0.0
サービス業	25.8	35.5	38.7	▲ 12.9
総計	37.0	38.2	24.9	12.1

業種別	増加	変わらず	減少	DI
卸売業	14.3	85.7	0.0	14.3
小売業	24.0	76.0	0.0	24.0
総計	20.5	79.5	0.0	20.5

- ①昨年同期(2012年7月～9月)比較売上高DIは、不動産業を除くすべての業種でプラスとなり、全業種でプラス21.3となった。
- ②昨年同期比較収益DIは、製造業、建設業と卸売業でプラスとなり、全業種でプラス12.1となった。
- ③昨年同期比較販売価格DIは、卸売業はプラス14.3、小売業はプラス24.0となった。

■ 販売価格 ■

販売価格DI	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	上昇	変わらず	下降	DI	上昇	変わらず	下降
製造業	0.0	16.7	80.0	3.3	13.4	16.7	78.3	5.0	11.7
建設業	3.9	24.2	75.8	0.0	24.2	21.2	75.8	3.0	18.2
卸売業	7.2	7.1	92.9	0.0	7.1	28.6	71.4	0.0	28.6
小売業	▲ 4.4	24.0	72.0	4.0	20.0	16.0	84.0	0.0	16.0
不動産業	0.0	0.0	60.0	40.0	▲ 40.0	10.0	70.0	20.0	▲ 10.0
サービス業	7.4	0.0	87.1	12.9	▲ 12.9	6.5	87.1	6.5	0.0
総計	2.0	14.5	79.2	6.4	8.1	16.2	79.2	4.6	11.6

- 販売価格DIは、今期は、全業種でプラス8.1となった。来期見通しは、販売価格の下降を予想する企業は少なく全業種でプラス11.6となっている。

■ 仕入価格 ■

仕入価格DI	前期	今期実績				来期見通し			
		DI	上昇	変わらず	下降	DI	上昇	変わらず	下降
製造業	27.4	48.3	48.3	3.3	45.0	26.7	61.7	11.7	15.0
建設業	38.5	57.6	42.4	0.0	57.6	42.4	57.6	0.0	42.4
卸売業	21.4	28.6	71.4	0.0	28.6	28.6	71.4	0.0	28.6
小売業	17.4	24.0	72.0	4.0	20.0	16.0	76.0	8.0	8.0
不動産業	0.0	0.0	80.0	20.0	▲ 20.0	0.0	80.0	20.0	▲ 20.0
サービス業	11.1	32.3	64.5	3.2	29.1	41.9	58.1	0.0	41.9
総計	22.5	39.3	57.2	3.5	35.8	29.5	64.2	6.4	23.1

- 仕入価格DIは、不動産業を除き、今期は前期に引き続き仕入価格上昇の回答が多く、全業種でプラス35.8となった。来期見通しは全業種でプラス23.1となっている。
- 仕入価格の上昇をすべて販売価格に転嫁する予定の企業は少数であった。

■在庫■

在庫DI	前期	今期実績				来期見通し			
		業種別	DI	過剰傾向	適正	不足傾向	DI	過剰傾向	適正
製造業	1.9	6.7	81.7	11.7	▲ 5.0	8.3	86.7	5.0	3.3
建設業	11.5	12.1	87.9	0.0	12.1	9.1	90.9	0.0	9.1
卸売業	14.3	7.1	92.9	0.0	7.1	21.4	78.6	0.0	21.4
小売業	4.4	12.0	80.0	8.0	4.0	16.0	76.0	8.0	8.0
不動産業	10.0	40.0	30.0	30.0	10.0	30.0	50.0	20.0	10.0
総計	6.4	11.3	80.3	8.5	2.8	12.7	82.4	4.9	7.8

●在庫DIは、今期は、製造業を除きプラスとなり、全業種でプラス2.8となった。来期見通しは、全業種でプラス7.8となっている。

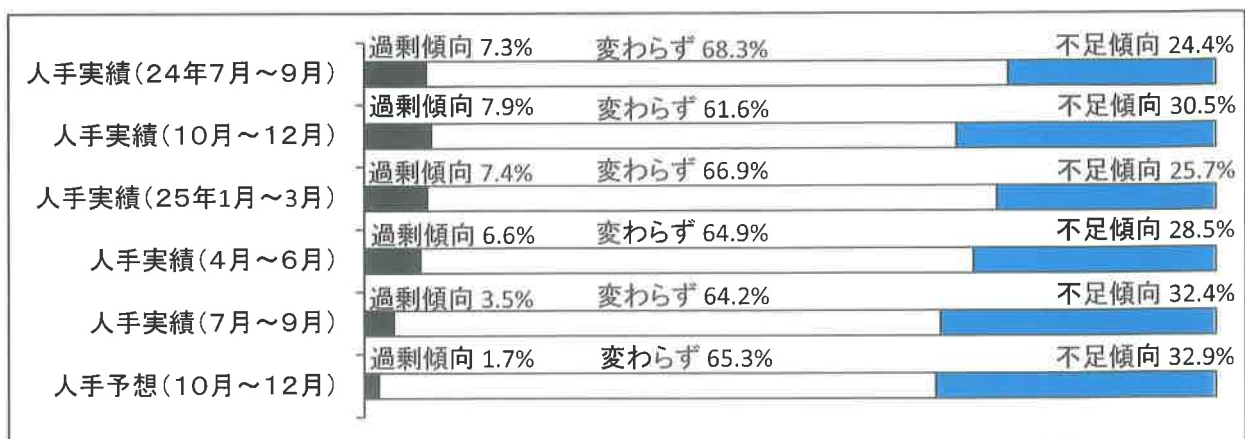
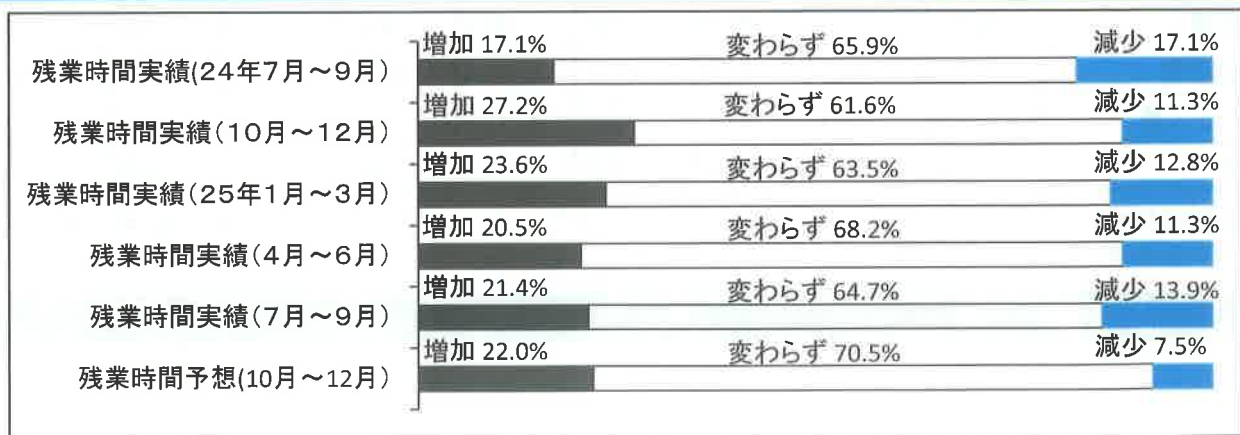
■受注残■

受注残DI	前期	今期実績				来期見通し			
		業種別	DI	増加	変わらず	減少	DI	増加	変わらず
製造業	19.6	30.0	58.3	11.7	18.3	35.0	55.0	10.0	25.0
建設業	11.6	57.6	36.4	6.1	51.5	42.4	54.5	3.0	39.4
総計	16.9	39.8	50.5	9.7	30.1	37.6	54.8	7.5	30.1

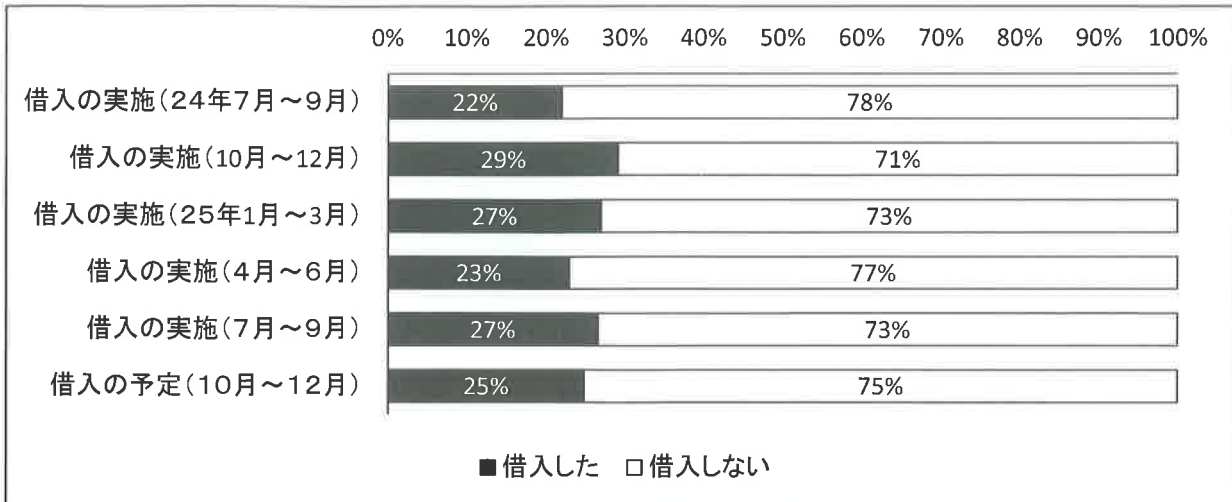
●製造業の受注残DIは、今期はプラス18.3となった。来期見通しはプラス25.0となっている。

●建設業の受注残DIは、今期はプラス51.5となった。来期見通しはプラス39.4となっている。

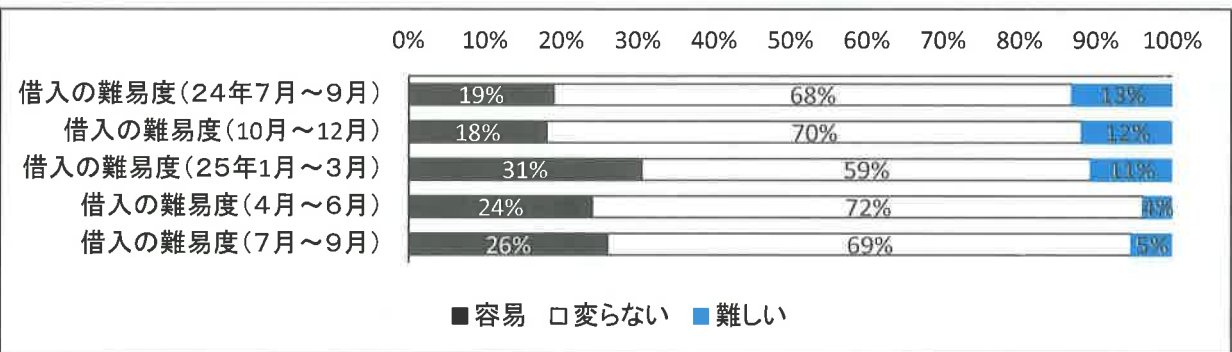
■雇用面の動き■



借入金の動き・難易度



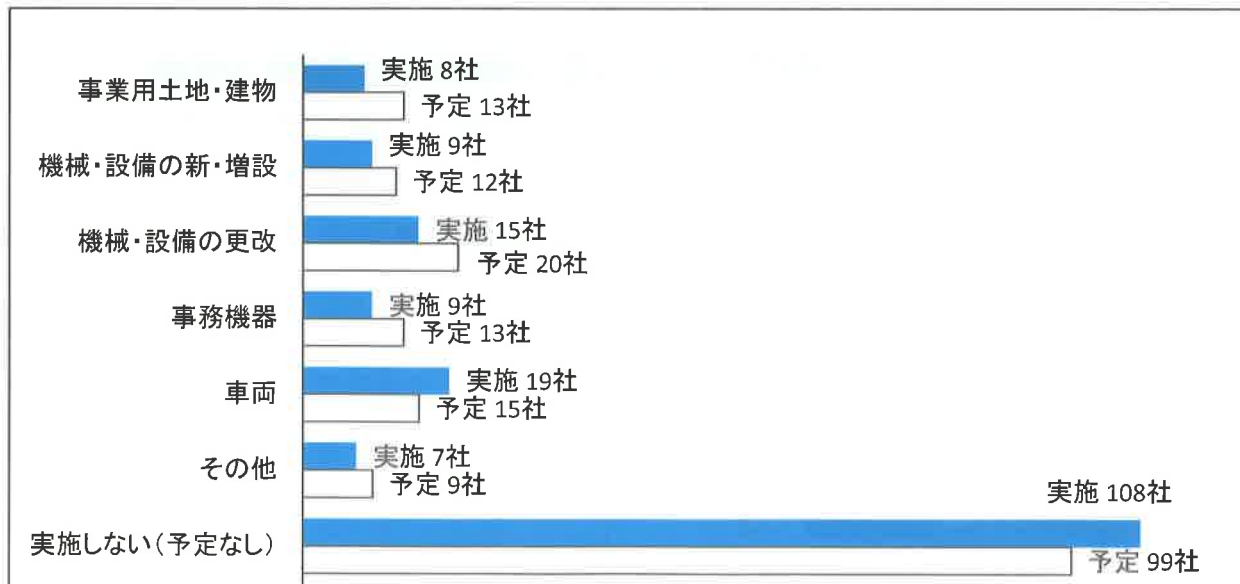
●借入を実施（25年7月～9月）した企業の割合は、去年同期比5ポイント増加した。借入の予定（25年10月～12月）をしている企業の割合は、去年同期に比べ減少となっている。



●借入金の難易度（25年7月～9月）は、去年同期比『容易』と回答した企業の割合が増加し、『難しい』と回答した企業の割合が減少した。

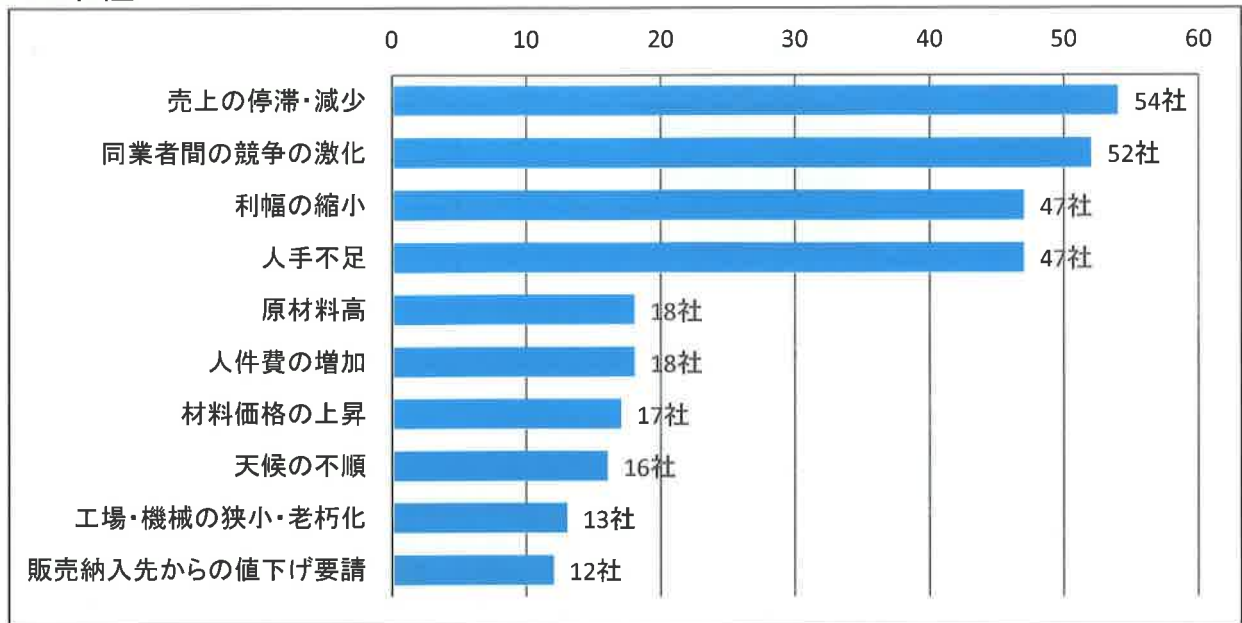
設備投資の実施(25年7月～9月)と予定(25年10月～12月)

●全業種(除く不動産業:有効回答計163社)



■ 経営上の問題点 ■

● 全業種

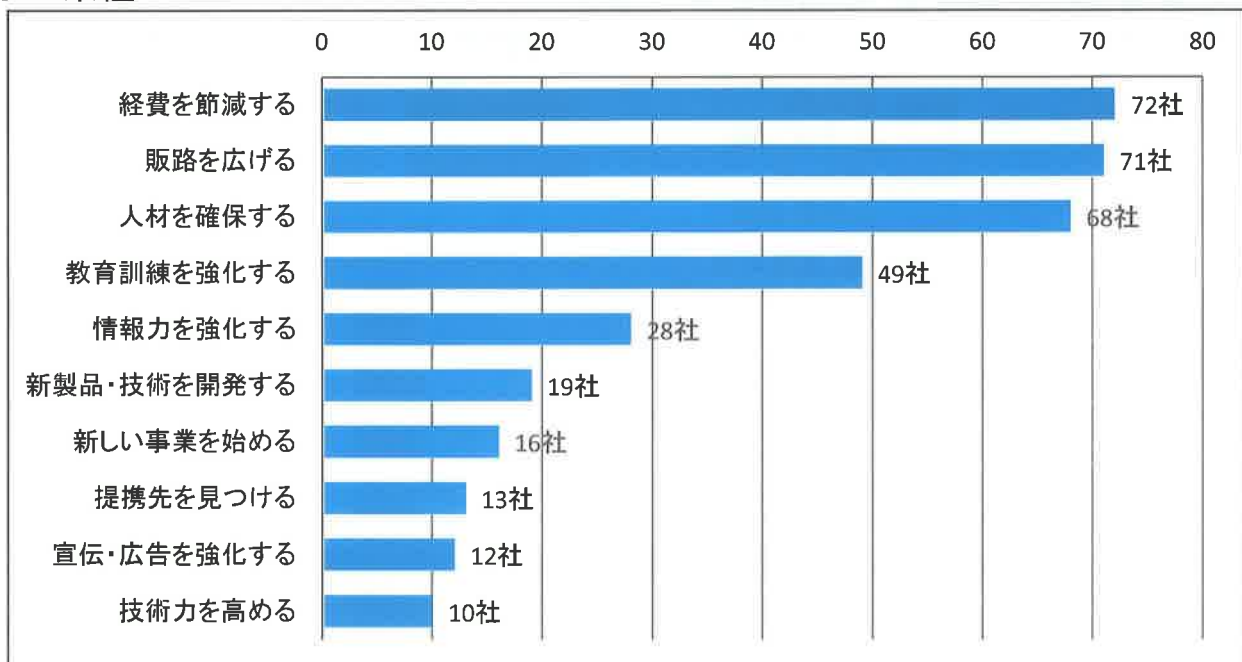


● 業種別

	製造業	%	建設業	%	卸売業	%	小売業	%	不動産業	%	サービス業	%
1位	原材料高	12.9	同業者間の競争の激化	15.5	同業者間の競争の激化	14.3	利幅の縮小	20.3	利幅の縮小	24.0	人手不足	16.3
2位	売上の停滞・減少	11.4	人手不足	15.5	売上の停滞・減少	14.3	商圏人口の減少	14.1	売上の停滞・減少	24.0	同業者間の競争の激化	15.0
3位	人手不足	10.7	材料価格の上昇	13.1	小口注文・多頻度配送の増加	11.4	売上の停滞・減少	14.1	商品物件の不足	20.0	売上の停滞・減少	12.5
4位	工場・機械の狭小・老朽化	9.3	利幅の縮小	10.7	取引先の減少	11.4	同業者間の競争の激化	9.4	同業者間の競争の激化	16.0	人件費の増加	10.0
5位	同業者間の競争の激化	8.6	売上の停滞・減少	9.5	販売納入先からの値下げ要請	8.6	大型店との競争の激化	9.4	その他	8.0	店舗・設備の狭小・老朽化	8.8

■ 当面の重点経営施策 ■

● 全業種



●業種別

	製造業	%	建設業	%	卸売業	%	小売業	%	不動産業	%	サービス業	%
1位	販路を広げる	22.1	人材を確保する	17.1	販路を広げる	31.4	経費を節減する	20.0	情報力を強化する	25.0	人材を確保する	25.6
2位	経費を節減する	15.9	経費を節減する	17.1	経費を節減する	22.9	人材を確保する	16.7	不動産の有効活用を図る	16.7	教育訓練を強化する	17.4
3位	人材を確保する	13.1	販路を広げる	14.6	情報力を強化する	20.0	教育訓練を強化する	16.7	販路を広げる	16.7	経費を節減する	17.4
4位	新製品・技術を開発する	13.1	技術力を高める	12.2	新しい事業を始める	5.7	売れ筋商品を取り扱う	11.7	宣伝・広告を強化する	12.5	販路を広げる	14.0
5位	教育訓練を強化する	9.0	教育訓練を強化する	11.0	人材を確保する	5.7	宣伝・広告を強化する	8.3	新しい事業を始める	12.5	技術力を強化する	7.0

■調査員の調査コメントから■

○昨年12月調査では自民党政権への期待、3月調査ではアベノミクスによる円安・株高と金融緩和期待、6月調査では円安・株高の継続とねじれ国会の解消期待から、経営者の景気回復への期待マインドが高かった。今回9月調査では、経営者個人のことに関しては、株の上昇等により明るさが見えているとの声であったが、自社にとっては原油高の影響が仕入れ価格の上昇や経費の上昇になっており、そんなに明るいという訳ではないとの声が多かった。

○消費増税までは、建設業とその関連業種（製材業者、建築資材業者など）は好調を維持する見込みであるが、半年先あるいは1年先の反動を警戒している経営者が多かった。

○建築業で職人不足、医療業界で看護師不足が継続している。今回の調査では、薬剤師が不足しているとの声が複数あった。大手ドラッグストアの出店が背景にあり、好条件のところに転職しているとの声があった。

○設備投資については、将来の景気が良くなることを見通せないから、投資はできないとする経営者が大多数であった。その中で、ものづくり補助金（2/3の補助金）が認定されれば、機械の更新を行いたいとする経営者が複数あった。新規投資としては、太陽光発電設備やバイオマス関連の投資を計画している企業が数社あった。

○調査先経営者の営業活動の感触では、取引先社長の投資マインドが低いと感じるとの声があったり、米の取引価格が大幅下落（20%程度）する見込みであることから農業者の投資マインドの低下を予想する声もあった。

○公共工事の端境期であり、停滞しているが、今後公共工事の発注が進むにつれて業況回復すると見通す企業が多くあった。また、2020年東京オリンピックが決定すると景気が良くなるといった声もあった。

以上

■調査要領■

1. 調査対象

当金庫営業エリア内の中小企業

2. 調査時期

2013年8月22日～9月6日

3. 調査方法

当金庫職員による訪問聞き取り調査

4. 分析方法

DIを中心に分析

5. 季節変動について

業況判断DIは、毎年1～3月期に低下し、4～6月期に上昇するという季節的な変動（季節変動）がありますが、当金庫の分析においては季節変動の調整（季節調整）は行っておりません。

※ 本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。また、掲載資料は正確性・安全性を保証するものではありません。

■調査対象■

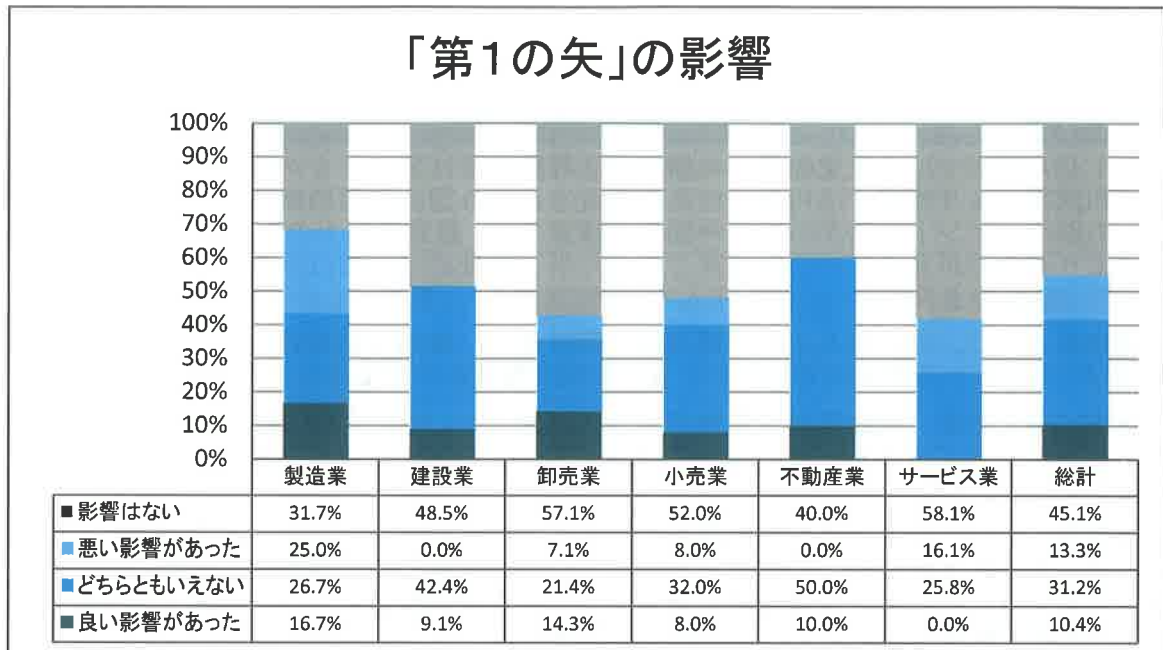
地区別	企業数	従業員規模別	企業数	比率
津山鏡野地域	105	1～4人	21	12.1%
真庭地域	37	5～9人	30	17.3%
美作勝央地域	31	10～19人	50	28.9%
総計	173	20～29人	26	15.0%
		30～39人	13	7.5%
		40～49人	8	4.6%
		50～99人	10	5.8%
		100～199人	10	5.8%
		200～300人	5	2.9%
		総計	173	100.0%

業種別	企業数
製造業	60
建設業	33
卸売業	14
小売業	25
不動産業	10
サービス業	31
総計	173

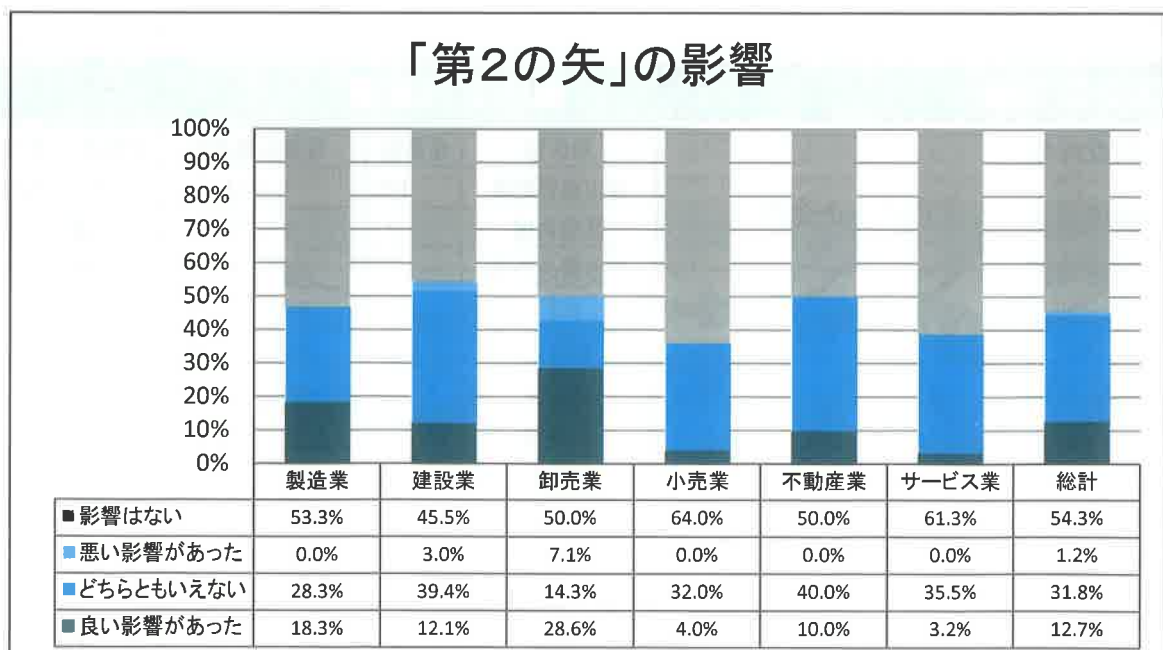
☆☆☆ 特別調査 ☆☆☆

「特別調査-「アベノミクス」がもたらす中小企業への影響について」

問1. 「アベノミクス」において「第1の矢」とされる「大胆な金融緩和（円高是正・量的緩和等）」は、貴社の業況にどのような影響を与えましたか。また、「第2の矢」とされる「機動的な財政政策（大規模な公共投資等）」は、貴社の業況にどのような影響を与えましたか。

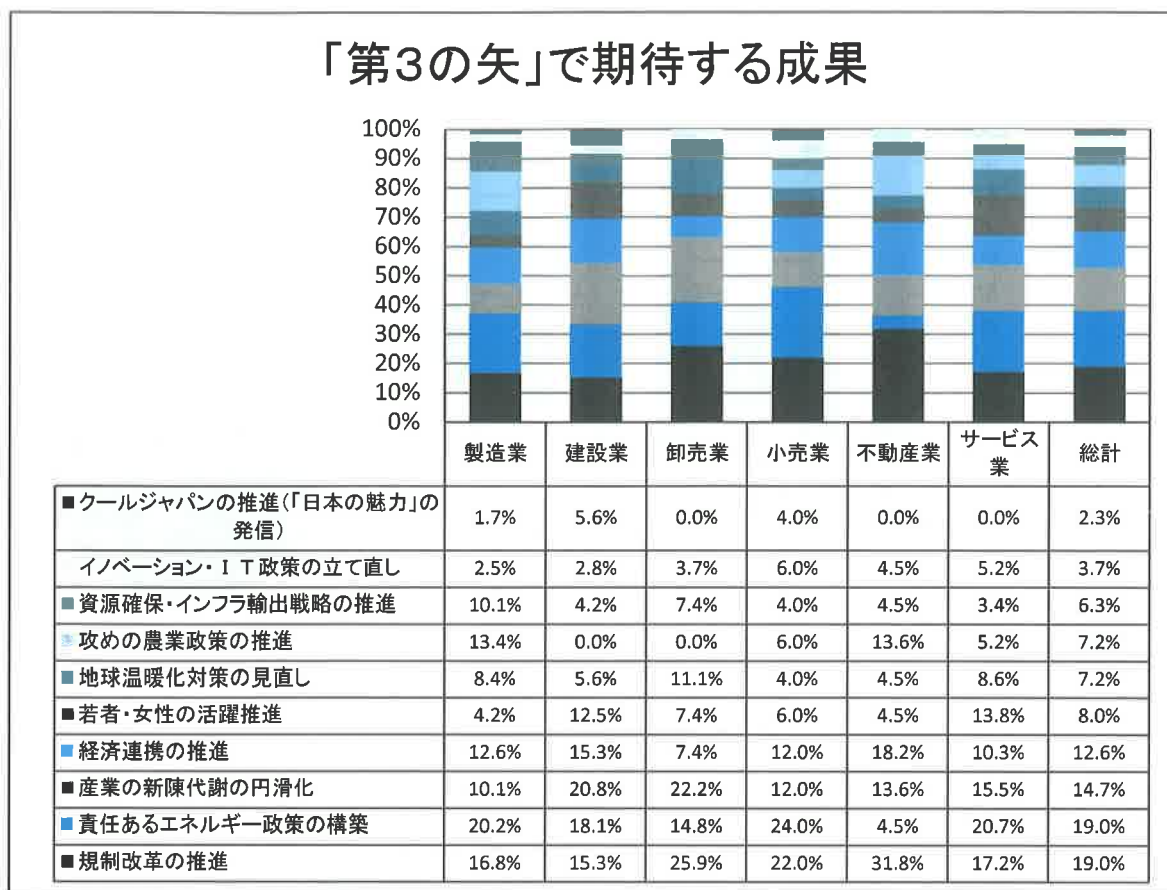


●『良い影響があった』10.4%、『悪い影響があった』13.3%、『どちらともいえない』31.2%、『影響はない』45.1%となった。製造業に与える影響が一番多かった。



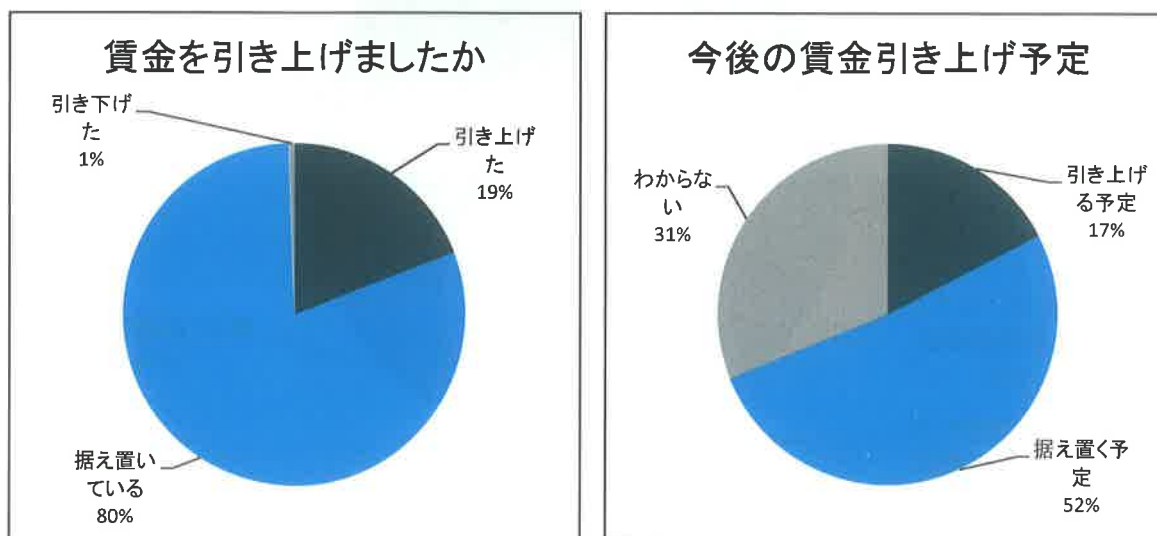
●『良い影響があった』12.7%、『悪い影響があった』1.2%、『どちらともいえない』31.8%、『影響はない』54.3%となった。『良い影響があった』とする企業比率が、卸売業、製造業、建設業の順になった。

問2. 「アベノミクス」において「第3の矢」とされる「民間投資を喚起する成長戦略」について、どのような分野での成果を期待しますか。（複数回答）



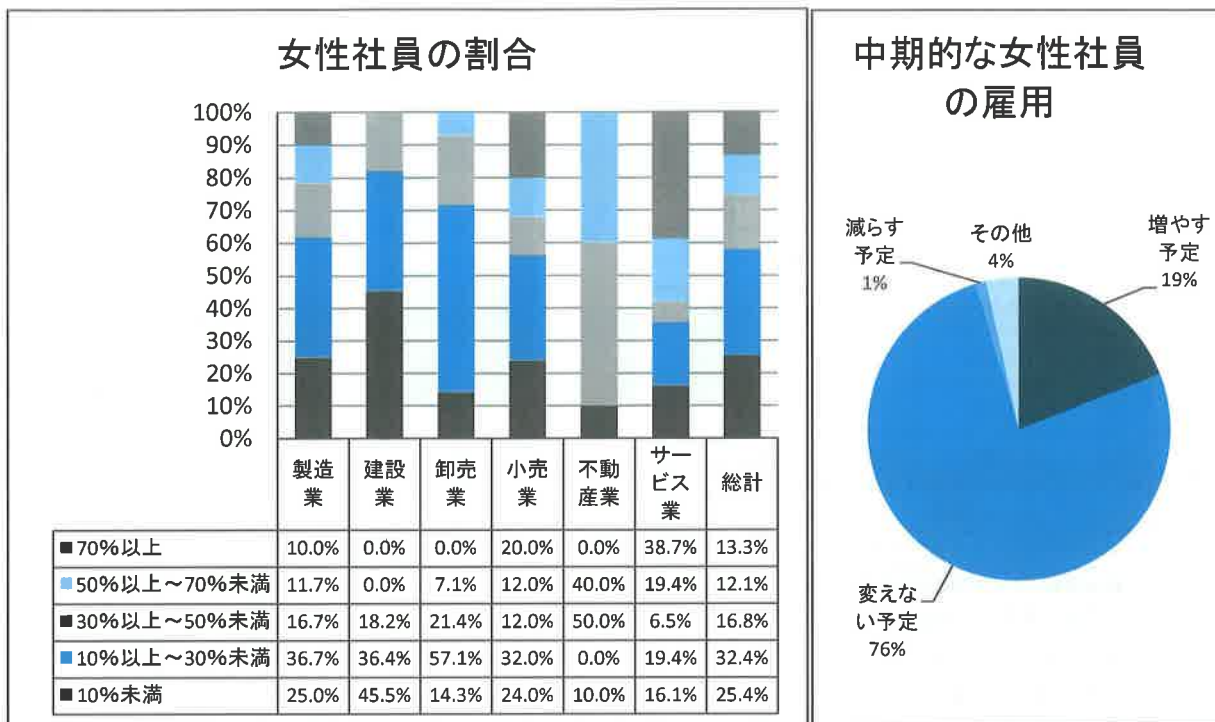
- 『規制改革の推進』、『責任あるエネルギー政策の構築』、『産業の新陳代謝の円滑化』の順になった。
- 業種別の比率トップの項目は、製造業、小売業とサービス業が『責任あるエネルギー政策の構築』、卸売業と不動産業が『規制改革の推進』、建設業が『産業の新陳代謝の円滑化』となった。

問3. 貴社では、「アベノミクス」の流れの中で、賃金を引き上げましたか。また、今後（1年以内）賃金を引き上げる予定はありますか。



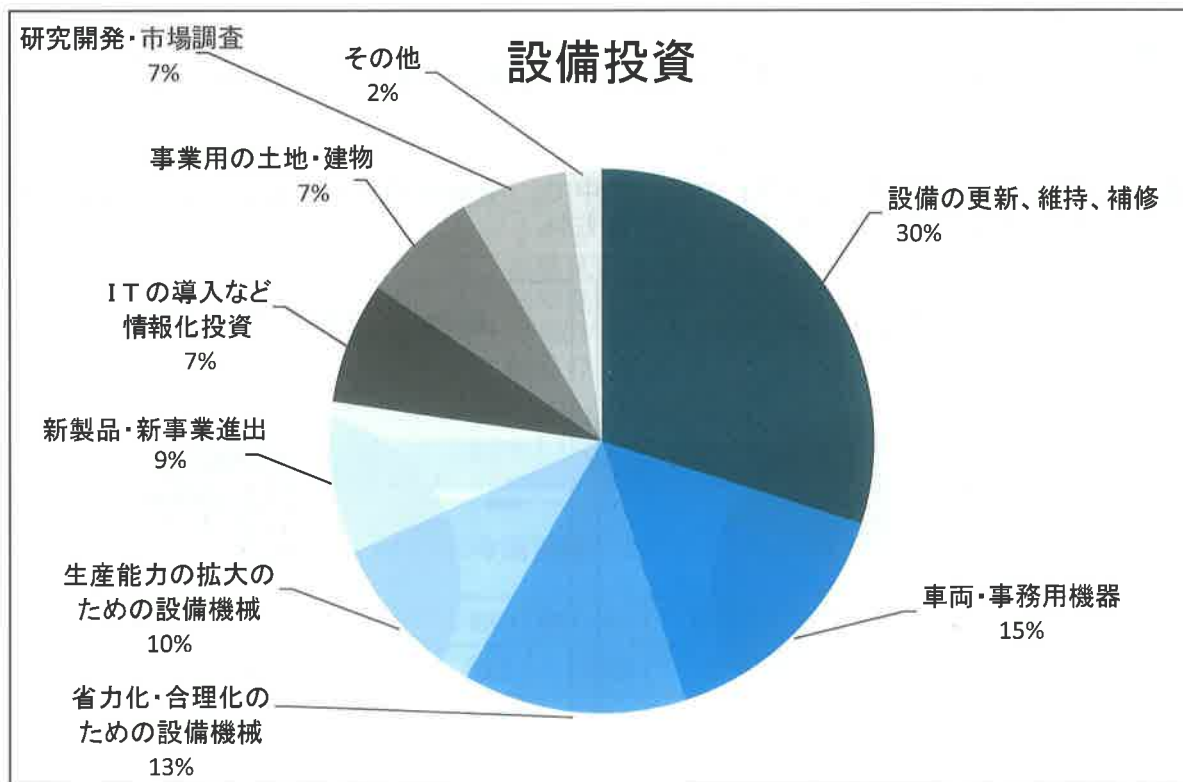
- 賃金の引き上げをした企業比率は19%、引き上げ予定の企業比率は17%となった。

問4. 「アベノミクス」では女性の活躍推進が期待されていますが、貴社の従業員数に占める女性社員の割合はおよそどのくらいですか。また、中期的に（3年～5年後）女性社員の雇用について、どのように対応する予定ですか。



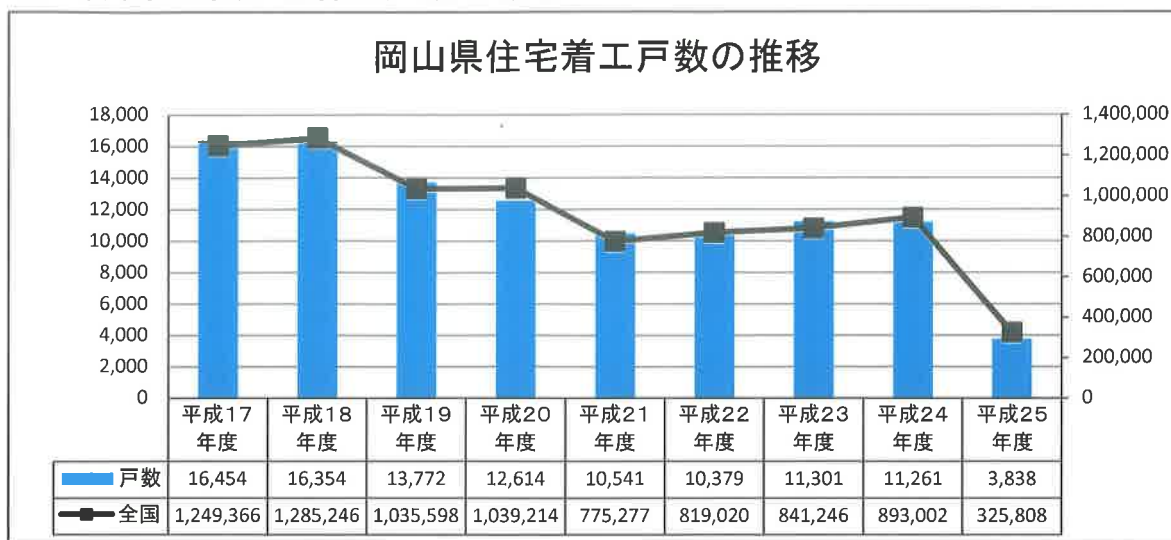
● 女性社員の割合が半数以上の企業割合は25.4%となり、サービス業、不動産業、小売業の順となった。中期的に女性社員の雇用を増やす予定企業の割合は19%となった。

問5. 貴社では、「アベノミクス」の流れの中で、設備投資を増やすとすれば、どのような内容が考えられますか。（複数回答）

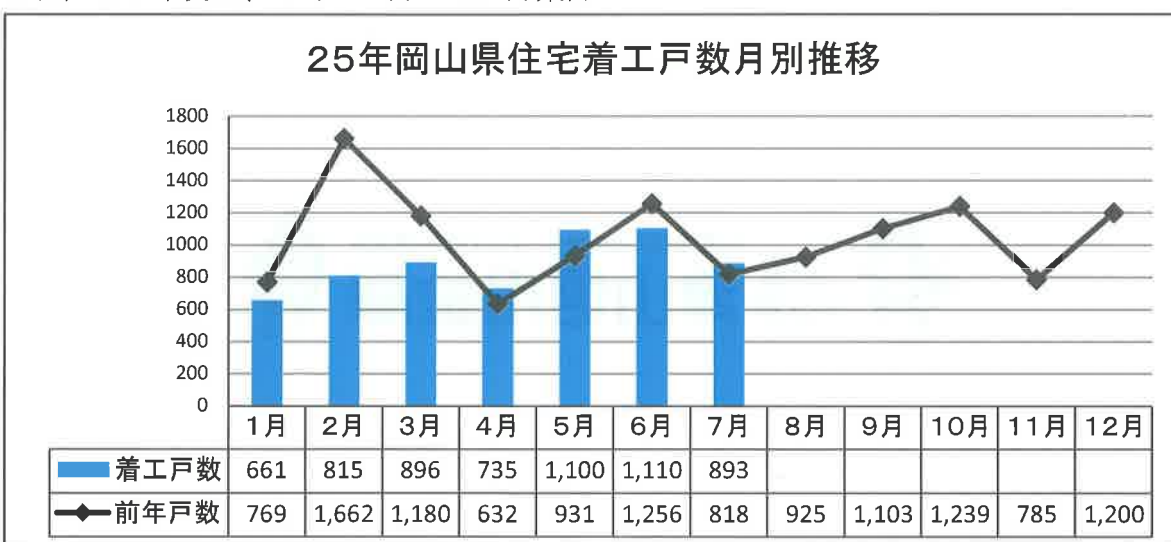


● 『設備の更新、維持、補修』がトップで以下、『車両・事務機器』、『省力化・合理化のための設備機械』となった。

(参考)岡山県住宅着工戸数の推移



※注) 25年度は、4月～7月の4か月集計



岡山県の住宅着工戸数は、全国の約1.3%のシェアとなっている。25年度(4月～7月)の岡山県の住宅着工戸数は、前年比約6%増加となっている。構造別木造の全国データでは、25年度(4月～7月)は、前年比約14%の増加となっている。

■ 作州地域のパートナー ・ よろず相談信用金庫 ■

●本調査は、信金中央金庫が実施する「全国中小企業景気動向調査」の調査表を使用しています。信金中央金庫の『中小企業景況レポート』は、全国約16,000社の中小企業を全国270の信用金庫職員が面接により調査したものです。

●本調査先数は、前回より22社増加し、173社のご協力をいただきました。

●当金庫が目指す姿は「作州地域のパートナー」です。その意図は、「我々は、主役であるお客様や地域を支える「パートナー」でありたい。よき脇役、よき裏方として、お客様と相互理解の下、切磋琢磨し、お互いに高め合う存在でありたい」というものです。本業を真剣に取り組み、我々の意見にも耳を傾けて頂き、協力し合えるお客様を我々はお手伝い致します。

●顧客サービスの充実を目指す意気込みを込めて「よろず相談信用金庫」という新キャッチフレーズを定め、「地域創造課」を本年4月に新設しました。地域創造課では、景況調査、創業支援、海外進出支援、M&A支援、事業承継支援、地域振興支援、私募債の発行支援そして補助金申請支援等々、地域とお客様の役に立つ活動に取り組んでいます。

●補助金申請においては、8月末現在87件のご相談をさせていただき、16件の採択をいただきました。



作州地域のパートナー・よろず相談信用金庫

津山信用金庫



岡山県津山市山下30-15

0868-22-4121

営業支援部

(担当：杉山裕昭)